

スポーツ・レクリエーション指導者の ドロップアウトに関する要因論的研究 (I)

—指導活動にともなう生活支障とのめり込み度との関連を中心に—

○松尾哲矢 大谷善博 徳島 了 (福岡大学) 多々納秀雄 菊 幸一 (九州大学)

ドロップアウト 生活支障 のめり込み度 因子分析

1. 研究の目的

我が国における地域スポーツ・レクリエーション指導者の多くがボランティアであることは周知の事実である。しかしながら、ボランティア指導者が指導活動に没頭するあまり家庭・地域・職場における日常生活に支障をきたし、それが原因で指導活動を止めたり、逆に日常生活場面において破綻の危機にさらされている事例が見られることもまた事実である。スポーツ指導者のドロップアウトに関しての研究は、その必要性を指摘されているにもかかわらず研究自体が少ないことに加え、その焦点は外的・環境的要因に絞られることが多く、そこに致る構造と過程について研究されたものはほとんどない。そこで、本研究では、ドロップアウトの前段階ともいえる生活支障状況に焦点を絞りながらそれに対して最も強い影響を与えるものと推測される指導に対しての、のめり込み度と生活支障との関連を中心にのめり込みの構造とその規定要因を明らかにしようとするものである。

2. 研究の方法

- 1) 時期：昭和63年1-3月
- 2) 対象：福岡市及び福岡市近郊在住の地域
スポーツ・レクリエーション指導者
- 3) 方法：留置法による質問紙法（一部を郵送法用いた）

表-1

配布数	回収数	回収率
1,053	671	64.0%

3. 分析枠組

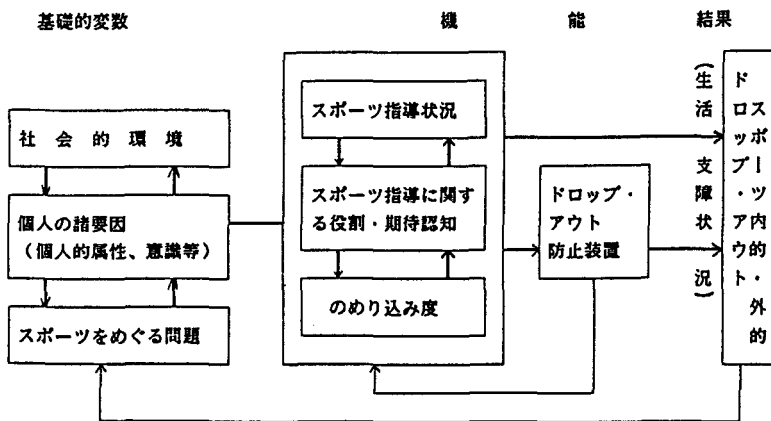


図-1

4. 結果と考察

1) 指導役割・期待、ボランティア意識及びタイプ指導にともなう指導期待や指導役割を感じる人は非常に多く、8-9割に達する一方、「ボランティア」を犠牲的というより余暇的なもの、社会的というより個人的なものと捉え、職業化、専門化には反対で「多少の支障も止むを得ない」とみなすなど、全体として

は、現在の指導について十分な意義を感じ、ボランティアとしての指導形態を肯定する意見が強い。

2) 指導活動にともなう生活支障状況

日常生活に「かなり支障がある」と感じている人は、全体の3割であり、生活支障の問題が、限られた特殊的・個別的な現象ではなく、かなり一般的・普遍的な現象であることが示唆される。まず、時間的支障として指導・試合による休暇や休業を約半数の人がとり、

多い人で30日にも及ぶ。また、金銭的支障として大半の人が無報酬で指導活動を展開し約2割が経済的負担を訴えている。次に、生活領域別にみると「家庭生活」で約5割、「労働生活」で約3割、「余暇生活」で約5割の人が生活支障を感じ、さらにその個別的内容として、以下のものを挙げる人が多い。

家庭生活—「共に過す時間の減少」「家庭的義務活動の怠慢」

労働生活—「労働時間への指導時間の食い込み」「仕事仲間との付き合い減少」

余暇生活—「家族との余暇時間の減少」「指導以外の趣味活動の減少」等

3)「のめり込み度」との関連で

指導に対する没頭度をみるために、10項目からなる「のめり込み」尺度を作成し、それぞれ4段階で回答を求め、それについて因子分析を適用した。そして得られた各項目の因子得点係数を基準としながら対象者を各々高・中・低のめり込み群に分類し、関連諸項目とのクロス分析(カイ二乗検定)を試み、主要な結果は次の通りである。(表-2)

まず、生活支障との関連を

表-2

		指導意識	指導役割・期待	ボランティア意識	指導満足度	家庭協力度	家庭好意度	生活支障
のめり込み度	高レベル	競技会志向	役割=94.9% 期待=86.6%	自己犠牲賛成79.1 (犠牲的) 47.5%	成績満足度満足=70.0 指導技術満足=52.9	協力的 55.1% まあ 38.8%	好意的 41.7% まあ 54.2%	支障あり=47.6%
	低レベル	健康・体力楽しみ志向	役割=77.5% 期待=65.5%	自己犠牲賛成65.2 (犠牲的) 15.4%	成績満足度満足=55.4 指導技術満足=39.0	協力的 24.4% まあ 64.7%	好意的 18.8% まあ 69.4%	

P<0.001 P<0.001 P<0.001 P<0.001 P<0.01 P<0.5 P<0.001

己犠牲タイプ、高い指導満足度等が指摘される。次に、のめり込み度とその規定要因を数量的に把握するために、林の数量化理論を用いて分析を試みた。その際、外的基準を「のめり込み度」として数量化理論第1類を用いて分析を行った。まず、生活支障と全項目の相関係数を求めた結果、最も高い相関は「のめり込み度」において認められ、「のめり込み」を外的基準とすることの妥当性、そしてその尺度の有効性が示唆された。次に、のめり込み度と他の要因との重相関係数は、0.691であり、ほぼ50%の説明力を有した。特にその中で、「指導役割」「指導意識」「職業」「職場協力度」「指導休暇」「指導技術満足度」「ボランティア・タイプ」の順に高いこと、また、のめり込みにポジティブに作用するカテゴリーとしては、「指導技術満足度が高い」「競技会志向」「役割意識が高い」「指導回数が多い」「生きがいタイプ」「主婦」「教員」等があげられる。

5. 要 約

1) 約3割の人が生活支障を感じながら指導を継続しており、その内容は、時間的、金銭的、空間的、関係的に生活場面によって多様である。

2) 指導に対する没頭度と指導内容、意識が明確な相互連関関係をなし、両者は相互に作用しながら拡大再生産的構造を形づくっている状況が認められ、結果として生活支障の増大をもたらしていると推察される。

3) 指導に対する没頭度において、指導役割意識、競技志向的意識、指導技術、職業的要因が強く関与し、具体的には自らの指導技術に対する評価が高く、競技志向的で周囲からの期待と役割を意識し、スポーツ指導を生きがいとするようなタイプの指導者が強いめり込みを示す傾向にあるといえる。